

# 世界史通信 ～感染症を考える～

## 1. イタリア ミラノ在住の先輩のtweet



二宮 義和 🇮🇹🇺🇸 @ミラノ在住  
@ninobe27

イタリアは予算削減による以前からの医師・看護師不足、初期対応の誤りによる感染の拡大(院内感染含む)、甚大な検査数に伴う医療現場の疲弊(崩壊)により、非常に危機的な状況です。数字の推移を見ると恐ろしいですが、北部に比べ医療水準が劣ると言われる南部に感染が拡大しない事を祈るばかりです。

	陽性者		回復者		死亡者		総感染者数		検査数	
	日計	累計	日計	累計	日計	累計	日計	累計	日計	累計
~2/25		311				10		321		
2/26	74	385	2	2	2	12	78	399		
2/27	203	588	42	44	5	17	250	649	2,427	2,427
2/28	233	821	1	45	4	21	238	887	3,681	6,108
2/29	228	1,049	4	49	8	29	240	1,127	2,966	9,074
3/1	528	1,577	33	82	5	34	566	1,693	2,466	11,540
3/2	258	1,835	66	148	18	52	342	2,035	2,218	13,758
3/3	428	2,263	11	159	27	79	466	2,501	2,511	16,269
3/4	443	2,706	116	275	28	107	587	3,088	3,981	20,250
3/5	590	3,296	138	413	41	148	769	3,857	2,525	22,775
3/6	620	3,916	109	522	49	197	778	4,635	3,997	26,772
3/7	1,145	5,061	66	588	36	233	1,247	5,882	5,703	32,475
3/8	1,326	6,387	33	621	133	366	1,492	7,374	7,875	40,350
3/9	1,598	7,985	102	723	97	463	1,797	9,171	3,889	44,239
3/10	529	8,514	280	1,003	168	631	977	10,148	6,935	51,174
3/11	2,076	10,590	41	1,044	196	827	2,313	12,461	12,393	63,567
3/12	2,249	12,839	213	1,257	189	1,016	2,651	15,112	12,857	76,424
3/13	2,116	14,955	181	1,438	250	1,266	2,547	17,659	11,477	87,901
3/14	2,795	17,750	527	1,965	175	1,441	3,497	21,156	11,682	99,583
3/15	2,853	20,603	369	2,334	368	1,809	3,590	24,746	15,729	115,312
3/16	2,470	23,073	414	2,748	349	2,158	3,233	27,979	13,063	128,375
3/17	2,989	26,062	192	2,940	345	2,503	3,526	31,505	10,695	139,070
3/18	2,648	28,710	1,084	4,024	475	2,978	4,207	35,712	16,884	155,954
3/19	4,480	33,190	415	4,439	427	3,405	5,322	41,034	17,236	173,190
3/20	4,670	37,860	689	5,128	627	4,032	5,986	47,020	24,109	197,299
3/21	4,821	42,681	943	6,071	793	4,825	6,557	53,577	26,336	223,635
3/22	3,957	46,638	952	7,023	651	5,476	5,560	59,137	25,180	248,815
3/23	3,780	50,418	408	7,431	601	6,077	4,789	63,926	17,066	265,881

イタリアの新型コロナウイルスに関わるデータ  
(この表は [lab24.ilsole24ore.com/coronavirus](http://lab24.ilsole24ore.com/coronavirus))

## 2. ベネチアの運河、美しさ取り戻す 観光客激減で予想外の影響

2020年3月17日 13時0分 (CNN. co.jp より、一部改)



世界が新型コロナウイルス対策に追われる中で、今回のパンデミックが予想外の影響をもたらしている。

例えばイタリアの観光地ベネチア。普段であれば年間を通して観光客が押し寄せる。

しかしイタリア全土で封鎖状態が続く今、運河を流れる水が澄んで見え、小さな魚が泳ぐ姿も見られるようになった。

地元住民などがこうした写真を撮影してフェイスブックに掲載している。

ユーザーからは、「自然が生命を吹き返した。なんて美しい」「魚までいて、それを見られる機会があるのは素晴らしい」などのコメントが書き込まれた。

ただしベネチア市長によると、水が澄んで見えるのは水質が改善したためではなく、運河の交通量が減って、沈殿物がボートに巻き上げられなくなったためだという。

写真 上・真ん中の2枚…現在のベネチアの運河  
下1枚…筆者と10数年前のベネチアの運河  
(当時水はきれいではなかった)

### 3. 歴史上の感染症

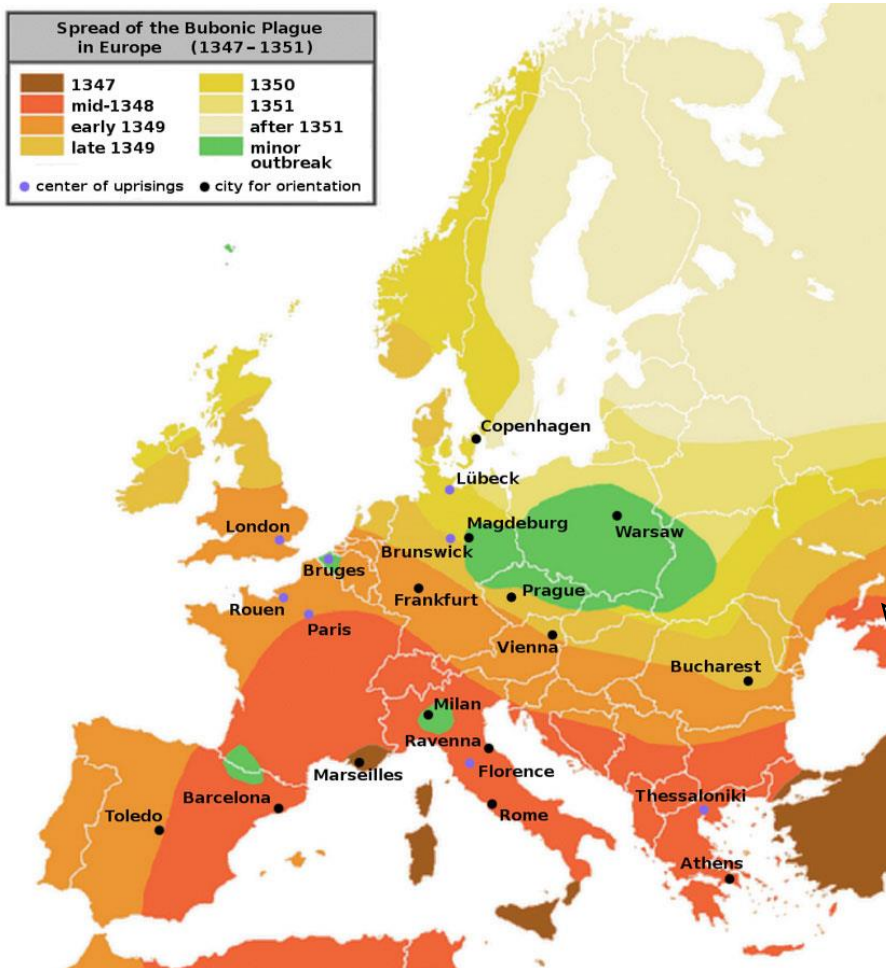
この度の新型コロナウイルスの世界的な感染拡大にともない、世界各地で混乱が生じている。特に先週から欧州における感染拡大にともない、入国制限、外出禁止令などの国を挙げた対応がニュースになっている。新型コロナウイルスにより大きな人的被害、経済的損失などが発生しているが、被害拡大の一方で上記2のような(最後にオチがついたものではあるが…)影響もあり、目に見えないウイルスにより何が起きており、今後どのようになっていくか、まだまだ先は見えない状況だ。

さて、「感染症の拡大」というピックは高校世界史の教科書でも出てくる。感染症は歴史を動かしてきた。政治機構による統治が安定していても、感染症の拡大により多くの人々が危機的な状況に陥ると、人々の不満の高まりから内乱、戦争、政体の崩壊などが起こってきた。

歴史に大きな影響を与えた感染症について考えてみたい。

### 4. 黒死病の流行 (1347年～1353年)

「黒死病」は感染すると皮膚に黒い斑点が出てくるためこのような名称がついたが、これはペストである。1347年にイタリア半島南部のシチリア島で発生し、その後ヨーロッパ全体を覆い尽くし、当時のヨーロッパの人口の1/3が死亡したとされている。ペストは長い歴史の中で何度も流行したが、14世紀ヨーロッパにおける流行は、特に甚大な被害と社会変化をもたらした。



ヨーロッパ地域においては、黒海沿岸・イタリア南部で1347年にまずペストの流行が見られ、その後南欧から北へと感染が拡大した。

※ポーランドのあたりは緑 (minor outbreak)、すなわち集団感染があまり起きていない地域となっているが、なぜ？  
→ポーランドではアルコール (蒸留酒) で食器や家具を消毒し、ワキや足などを消臭する習慣が広く定着していたほか、原生林が残り、ネズミを食べるオオカミや猛禽類などが多くいたためペストの発生が抑えられていたといわれている。

地図1 14世紀の世界規模の大流行

## ① なぜこの時代のヨーロッパで黒死病が大流行したのか？

黒死病流行の背景には、モンゴル帝国のユーラシア大陸制覇による「グローバル化」があったとされている。ペストの病原菌はネズミが媒介し、その病原菌をネズミに寄生するノミが人間に感染し発症する。モンゴル軍がミャンマーを攻めた時に感染してペストの菌を中国・中央アジアに持ち帰り、さらにモンゴル帝国のもとで活発化している東西交易の中で、黒海・地中海へと渡って、それがヨーロッパ中に広まったというものである。「人や物の往来の活発化→流行拡大」という図式である。



地図2 13世紀後半のモンゴル帝国の版図

## ② 黒死病の大流行で、ヨーロッパ地域にはどのような変化があったのか？

・黒死病の大流行はヨーロッパの社会を大きく変えた。特に農奴不足が続いていた荘園制に大きな影響を及ぼし、「封建制度の崩壊と各国の中央集権化」につながっていくが…ここでは書ききれない。詳細は世界史の教科書を読んでみよう。

・また、キリスト教社会であったヨーロッパにおいて、黒死病によるユダヤ教徒の犠牲者が相対的に少なかったことから、「ユダヤ教徒が井戸へ毒を投げ込んだ」等のデマが広まり、迫害や虐殺が行われた。(疫病の原因が「神の怒り」と信じたキリスト教会では、ユダヤ人が雑居しているからとしてユダヤ人を迫害・虐殺したとも言われている。ユダヤ教徒に被害が少なかったのは、「戒律に則った生活のためにキリスト教徒より衛生的であった」という説がある。)



『死の舞踏』  
「黒死病」の流行はヨーロッパに死の恐怖を引き起こし、かつこの時代のヨーロッパは死が身近なものであった。  
「メメント・モリ(memento mori, 死を思え)」という標語も流布した。



## 5. 新型コロナウイルス感染が拡大しているイタリア・ミラノでは

イタリアは、今回の新型コロナウイルスの感染が拡大している地域となっている。また上記のように14世紀のペストの流行の中心地域となり、その後も1629年からのペストの流行ではイタリア・ミラノがその中心となった。今回の新型コロナウイルス感染拡大の中、イタリア・ミラノのヴォルテ高校の校長が、休校措置がとられている学校のホームページで、生徒に向けてメッセージを送っている。日本語訳を紹介する。

——ヴォルテ高校の皆さんへ

“保険局が恐れていたことが現実になった。ドイツのアラマン人たちがミラノにペストを持ち込んだのだ。感染はイタリア中に拡大している…”

これはマンゾーニの「いいなづけ」の31章冒頭、1630年、ミラノを襲ったペストの流行について書かれた一節です。この啓発的で素晴らしい文章を、混乱のさなかにある今、ぜひ読んでみることをお勧めします。この本の中には、外国人を危険だと思い込んだり、当局の間の激しい衝突や最初の感染源は誰か、といういわゆる「ゼロ患者」の搜索、専門家の軽視、感染者狩り、根拠のない噂話やばかげた治療、必需品を買いあさり、医療危機を招く様子が描かれています。ページをめくれば、ルドヴィコ・セッターラ、アレックスサンドロ・タディーノ、フェリーチェ・カザーティなど、この高校の周辺で皆さんもよく知る道の名前が多く登場しますが、ここが当時もミラノの検疫の中心地であったことは覚えておきましょう。いずれにせよ、マンゾーニの小説を読んでいるというより、今日の新聞を読んでいるような気にさせられます。

親愛なる生徒の皆さん。私たちの高校は、私たちのリズムと慣習に則って市民の秩序を学ぶ場所です。私は専門家ではないので、この強制的な休校という当局の判断を評価することはできません。ですからこの判断を尊重し、その指示を子細に観察しようと思います。そして皆さんにはこう伝えたい。

冷静さを保ち、集団のパニックに巻き込まれないこと。そして予防策を講じつつ、いつもの生活を続けて下さい。せっかくの休みですから、散歩したり、良質な本を読んでください。体調に問題がないなら、家に閉じこもる理由はありません。スーパーや薬局に駆けつける必要もないのです。マスクは体調が悪い人たちに必要なものです。

世界のあちこちにあつという間に広がっているこの感染の速度は、われわれの時代の必然的な結果です。ウイルスを食い止める壁の不存在は、今も昔も同じ。ただその速度が以前は少し遅かっただけなのです。この手の危機に打ち勝つ際の最大のリスクについては、マンゾーニやボッカッチョ(ルネッサンス期の詩人)が教えてくれています。それは社会生活や人間関係の荒廃、市民生活における蛮行です。見えない敵に脅かされた時、人はその敵があちこちに潜んでいるかのように感じてしまい、自分と同じような人々も脅威だと、潜在的な敵だと思い込んでしまう、それこそが危険なのです。

16世紀や17世紀の時と比べて、私たちには進歩した現代医学があり、それはさらなる進歩を続けており、信頼性もある。合理的な思考で私たちが持つ貴重な財産である人間性と社会とを守っていきましょう。それができなければ、本当に‘ペスト’が勝利してしまうかもしれません。

では近いうちに、学校でみなさんを待っています。